

アントレプレナーシップ教育の 現状と課題



世界は今、VUCAの波に呑まれ、既存のビジネスモデルや社会システムは根底から変革を迫られている。予測不能な事態が常態化し、旧来の知識やスキルのみでは、個人も組織もその持続的な発展は危うい。

このような先行き不透明な時代を生き抜くためには、自ら課題を発見し、未踏の領域に果敢に踏み込み、リスクを恐れずに新たな価値を創造する「アントレプレナーシップ」が、組織や地域社会で活躍する全ての個人にとって不可欠な素養となっている。

即ち、アントレプレナーシップは、特定の起業家や独立を志す者にのみ求められる特殊な能力ではなく、あらゆる職業、あらゆるコミュニティーにおいて、変革を促す原動力として、普遍的に求められる資質へとその定義を変質させている。

この変革を主導する素養を育成する必要性は、現代における教育改革の最も重要な背景の一つを成している。そして、その醸成は、社会に出る前の高等教育機関のみならず、初高等段階も含めたシームレスな教育体系を通じて行われることが、社会全体から強く期待されている。

現状、アントレプレナーシップ教育の必要性を鑑み、政策レベルでの取り組みも着実に進められている。大学の経営層においては、この「アントレプレナーシップ」が意味する本質、そしてそれが特定の学部や学生層に限らず、あまねく全ての学生において必要とされる普遍的な能力であるとの認識を、改めて深く持つことが不可欠であると言えるだろう。

高等教育機関が輩出する人材の質が、未来社会の持続性と創造性を決定づける時代にあって、アントレプレナーシップの育成は、もはや単なるカリキュラムの選択肢ではなく、大学経営における喫緊かつ重要な戦略的課題として位置づけられなければならない。

本特集では、このような現代社会の要請を踏まえ、改めて今、真に求められるアントレプレナーシップとは何かを掘り下げ、大学におけるアントレプレナーシップ教育実施の現状と、その推進・普及における具体的な課題を詳細に検証する。また、教育機関が社会に対して担うべき役割とは何かを明確にし、国内外の好事例を交えながら、その実践的なアプローチを明らかにしたい。

Contents

Report
新たな社会価値の創り手たち

Interview
日本のアントレプレナーシップ教育の課題と
高等教育機関の役割

早稲田大学大学院経営管理研究科 教授 入山章栄

Contribution
日本のアントレプレナーシップ教育をどう設計するか
東京大学 FoundX ディレクター 馬田隆明／プログラムマネジャー 富田佳奈

Contribution
未来を切り拓く「生きる力」アントレプレナーシップ教育
文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 産業連携推進室 技術参与
米田哲郎

Case Studies
学生の「マインドセットと行動」を変える教育プログラム
①岡山大学／②崇城大学
③佼成学園高等学校／④大阪府立淀商業高等学校

編集長の視点